

平成28年度

自己点検・評価書  
(学校評価報告書)

附属池田小学校

## 1 附属池田小学校の現況

### (1) 学校名

大阪教育大学附属池田小学校

### (2) 所在地

大阪府池田市緑丘 1-5-1

### (3) 学級数・収容定員

18学級(1学年3学級) 収容定員人(1学級40人・ただし1、2、3、4、5年生は35人)

### (4) 児童数

613人

### (5) 教職員数

校長(専任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 教諭 24人(うち, 臨時的雇用2人), 非常勤講師 5人  
事務職員 3人, 臨時用務員(用務員1人), 調理員1名, 臨時用務員(調理員4人)

## 2 附属池田小学校の特徴

本校では、平成13年6月8日の事件以後、二度とこのような事件が起こらないよう安全管理に万全を期するとともに、「命の大切さ」を感じとることができる教育内容の研究を推進し、個々の児童が安全な社会の担い手になる教育を進めている。そして、平成21年2月23日に教育課程特例校指定を受け、全学年で週1時間、思考錯誤を繰り返しながら積み重ねてきた実践をもとにした安全科の授業を開始した。

また、平成22年3月に日本で初めて国際セーフスクールに認証され、安全教育を広く世界に向けて積極的に発信していくという責任を負い、その成果が認められ平成25年3月には再認証を受けている。平成27年3月6日にセーフティプロモーションスクールの認証を受けている。

## 3 附属池田小学校の役割

- (1) 義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを行う
- (2) 大阪教育大学との共同による学校教育と生涯教育の実践的研究
- (3) 大阪教育大学の学部生と大学院生の教育実習と実地研究指導
- (4) 公立学校との実践的研究交流など、地域社会との連携・協力
- (5) 学校が安全で安心できる場所とするための安全教育の実践と発信

## 4 附属池田小学校の学校教育目標

1. 自ら進んで学び、生活をきりひらく主体的な意欲と能力の育成
2. 好ましい人間関係を育てることによる集団的資質と社会性の育成
3. 自他の命を尊重し、社会の平和と発展を希求する心情の育成
4. 健康の増進と、明るくたくましい心身の育成
5. 安全な社会づくりに主体的に参画する人間の育成

## 5 附属池田小学校の学校教育計画

- 1 言語能力の向上、表現力豊かな児童の育成を目指し、各教科、道徳、安全科等を通じて自ら進んで考える力、伝え合う力の定着を図る。
- 2 自他の立場を考えて、共に強調して行動できる児童を育成する。
- 3 生命を尊重する意識を高め、地域社会や世の中の平和と発展を望む心情を育成する
- 4 身の回りの安全に注意し、自らの心身を進んで鍛えようとする心情を育成する。
- 5 安全科等の学習を通じて、人に守られるだけでなく、周囲に働きかけようとする意欲や態度の育成を図る。

6 附属池田小校の平成27年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	自ら進んで学び、生活をきりひろく主体的な意欲と能力の育成
学校教育計画	言語能力の向上, 表現力豊かな児童の育成を目指し, 各教科, 道徳, 安全科等を通じて自ら進んで考える力, 伝え合う力の定着を図る。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
児童が進んで考え、伝え合うことができる授業を目指し、授業力の向上及びその発信を図る。	① 「主体的・協働的な学び」という共通テーマのもと、授業デザインについて意見交流を行い、共有を図った。研究を深めるため、小規模や全体での研究授業を複数回実施する。	児童が主体的、協働的に学べる授業を進めるため、ICT機器を含めた思考ツールの在り方等から授業デザインについて全体で考えを深めることができた。教員	指導法に対する意識の改善は図れたが、その授業でのめあてや、教科として考えさせるべき内容が若干弱くなる傾向が見られた。	B	昨年同様、授業を改善するために、全員が授業を公開し、協議を重ねる先生方の熱心な姿勢が感じられた。	A	引き続き、研究授業を行い、学校としてのさらなる共通認識を図る。
	②外部に向けての発表会や研修会を年3回実施し、授業力の評価を問う。	今年度は、次期学習指導要領を見据えた授業の在り方を示唆するための研究会や、小中高合同での発表会と、小学校単独での研修会も実施した。どの発表においても、参考になったとの感想をいただくことが多かった。	小中校の連携では、池田キャンパス内でのさらなる連携の在り方に今後検討していく必要がある。	A	キャンパスのまとまりだけでなく、わが国における教育課題を十分に踏まえた研究会が実施できている。	A	次期学習指導要領改訂を踏まえた授業改善の在り方の具体的な授業の在り方について検討を進める。

学校教育目標	好ましい人間関係を育てることによる集団的資質と社会性の育成
学校教育計画	自他の立場を考えて、共に強調して行動できる児童を育成する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
児童相互の交流が生じる 学校としての取り組みを 実施する。	①縦割りの活動(わくわく活動)を通じ、リーダーシップ、フォロアーシップの育成を図る。	今年度も定期的な取り組みだけでなく、日常的な取り組み(縦割り清掃等)を実施することで、休み時間等自然な形で異学年交流する姿がよく見られた。	活動が固定化している傾向があるので、新たな取り組みについて考える必要が出てきている。	B	児童の縦のつながり希薄な現代においてこの取り組みは続けることに意義がある。	A	各学年に応じた関わり方について検討を進める。
	②文化発表会において、劇や音楽の発表を通じ、学級や学年の協力の必要性を実感させる。	昨年同様、劇や合奏合唱において、個人の力と全体のまとまりを発揮する場面が多く見られた。特に個別指導にも力を入れ全体のボトムアップを図ることができた。	内容を充実させるためのそれまでの指導に時間がかかってしまう傾向があった。	A	今年も素晴らしい取り組みであった。日常的な先生方の取り組みが十分行われているからであろう。	A	来年度も同様な発表ができるよう準備を進めていく。
	② 国際交流の推進	香港と台湾との交流に加え、今年度はシンガポールへの訪問を実施することができた。ビデをレターの交換も実施した。	引き続き日常的な交流を増やすこと検討しなければならない。	A	国際交流は、児童にとって貴重な経験となっている。	A	交流機会を増やす取り組みを検討したい。

学校教育目標	自他の命を尊重し、社会の平和と発展を希求する心情の育成
学校教育計画	生命を尊重する意識を高め、地域社会や世の中の平和と発展を望む心情を育成する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
生命尊重を重点内容とし 教育活動を実施する。	①6月8日の「祈りと誓いの集い」に向けての取り組みを充実させる。	今年度も、事前の取り組み、当日の集いの式典に参加することで、参加者が命の大切さについて再認識することができた。特にご遺族のお話は本校保護者にとって貴重なものとなった。	事件を直接知らない児童や保護者に対して、事件を風化させない取り組みとして、現代の課題を踏まえたものについて引き続き検討する必要がある。安全にかかわる発信も検討する必要がある。	A	事件を風化させることなく、命の大切さをしっかり考えることのできる取り組みを引き続き発信してほしい。	A	事件を直接知らない児童や保護者が大半になる中で、事件を風化させない取り組みについて引き続き検討する必要がある。

	②道徳週間等を実施し、学校全体で生命尊重の指導について交流を深める。	重点項目として生命尊重を取り上げる、同時期に実践することで、学校としてのまとまりが見られた。教員相互の児童理解の認識も深まった。	日常生活や現代の課題との結びつきを児童が認識できるような手立てが引き続き必要である。	B	命の大切さを知識だけでなく、行動や態度で表すことのできる子どもをぜひ育てほしい。	B	左の評価と同様に考える。
--	------------------------------------	--	--	---	--	---	--------------

学校教育目標	健康の増進と、明るくたくましい心身の育成
学校教育計画	身の回りの安全に注意し、自らの心身を進んで鍛えようとする心情を育成する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
校内のけがの減少を目指す	①安全科の授業等において具体的な場面をもとにどうすれば安全に生活することができるかを児童に考えさせる。	けが調べのデータや校内や校外の危険が予測される場面をもとに学習を進めることで、より具体的なイメージをもとに考えることができた。	けがについては、大幅な減少につながってはならず、不注意等でのけがも発生している。個別指導も引き続き行う必要がある。	B	全体指導と個別指導の両方の充実が必要である。	B	データをもとに、個人指導についても検討していく。
	②毎月の安全点検を活かし、危険個所の把握に努め、危険個所の早期改善に努める。	教員全員が、毎月担当場所を点検することで、その変化に迅速に気づくことができ、引き続き迅速な対応ができた。	昨年度と同様、施設自体の老朽化が現われ始めているので、引き続き安全点検が必要である。また、改修についても計画的に考えていく時期に来ている。	A	迅速な対応ができています。	A	

学校教育目標	安全な社会づくりに主体的に参画する人間の育成
学校教育計画	安全科等の学習を通じて、人に守られるだけでなく、周囲に働きかけようとする意欲や態度の育成を図る。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
安全に対して関心を高める	次期学習指導要領を念頭に置き、見直した安全科カリキュラムの定着を図る。	現代的な課題を取り入れたカリキュラムの再構築を行ったものを深めるべき改善に努めた。SNS と関わり方、震災関連の事象などを取り入れることができた。	授業内容の深まりを意識しながら、授業実践の充実に向けていく	A	引き続き、わが国をリードする安全教育の取り組みを進めてほしい。	A	SPSの取り組みと関連させ、より多くの機会での発信を図りたい。

